

04 会社概要

- 設立 平成10年(1998年)6月
- 資本金 172億21百万円
- 総資産 387億96百万円
- 本社所在地 東京都台東区寿2-1-13

1 株主・株式の状況

1 基本事項

- 定時株主総会開催時期 4月1日から4ヵ月以内
 - 決算期 3月31日
 - 公告の方法 官報に掲載
- ただし、保険業法の規定により行う公告は、東京都内で発行する産業経済新聞に掲載。決算公告については、当社のホームページ (<http://www.axa-direct.co.jp/Company/axadirect.html#kessan>) において提供いたします。

2 大株主の状況

平成22年(2010年)6月30日現在

氏名または名称	住所	所有株式数(株)	発行株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
アクサ ジャパン ホールディング株式会社	東京都港区白金1-17-3	344,430	100
計	—	344,430	100

3 資本金

※過去の推移

年月日	発行済株式数(株)	資本金(百万円)	摘要
平成18年(2006年)3月29日	299,430	14,971.5	増資
平成18年(2006年)9月29日	319,430	15,971.5	増資
平成19年(2007年)3月29日	344,430	17,221.5	増資

4 最近の社債発行

該当事項はありません。

2 役員の状況

取締役及び監査役 平成22年（2010年）6月30日現在

取締役

取締役会長（非常勤）	ギ・マルシア
代表取締役社長	藤井 靖之
取締役	石田 一夫
取締役	齋藤 貴之
取締役	喜多 暢之
取締役	ニコラ・エブラン
取締役	足立 正之
取締役（非常勤）	松田 貴夫
取締役（非常勤）	ヤン・ヴァン・デン・ベルグ

監査役

常勤監査役	府川 峰夫
監査役（非常勤）	アレックス・木村
監査役（非常勤）	フィリップ・キュテック

3 従業員の状況

平成22年（2010年）3月31日現在

従業員数	613名
平均年齢	35.7歳
平均勤続年数	3.1年

1 採用方針

当社は、人材の多様性が企業の活力を維持し、発展させていく要因であるとの信念と、人権尊重の考え方に基づき、採用を行うことを基本方針としております。採用にあたっては、職務に必要なスキルや経験、本人の適性や可能性等を考慮しつつ、人物本位の選考を行っております。

2 研修制度とキャリアパス

当社は開業以来、着実な成長を遂げ、現在もその成長を継続している、非常に活力あふれる若い会社です。設立当初から業務に携わった従業員や意欲あふれる若手社員から多くの管理職が育ち、登用されております。また、AXAグループのビジョン及び通信販売を理解する従業員を育て、一人一人が自身の将来に展望をもてるよう、研修制度の充実とキャリアパスへの配慮を図っております。

当社では、上記の育成観点において人事主導の研修を体系化し、キャリアや階層に応じた集合研修を段階的に実施していきます。具体的には、新人層へは主要な知識習得、若手層へはモチベーション向上、中堅層へはコア人材としての自覚を促し、管理職へはマネジメントスキルの習熟等をテーマとした研修です。部門や本部単位の研修では、業務上の要請に応じた課題解決のための研修や担当職務に適した研修をタイム

会社設立より醸成してきた自由闊達な企業文化や、培ってきた業務上のノウハウを、更に継承し、今後のビジネスの成長を確かなものとしていくために、新卒を含む未経験者の採用にも積極的に取り組んでおります。

リーに実施します。全社的な集合研修では、業務知識豊富な従業員を講師とし、部門を超えて専門分野の知識・経験を共有するための勉強会や、企業を取り巻く環境に適切に対応するためのコンプライアンス（法令順守）研修等を実施し、2010年度には、「お客さま中心主義」の浸透を主眼とするAXAグループ共通のプログラムを全従業員に展開しております。また、本年度初めに導入した「自己申告制度」と「社内公募制度」により、従業員のキャリアパスのチャンスを広げ、自己実現に向けたスキルアップと、職場の活性化を図ります。

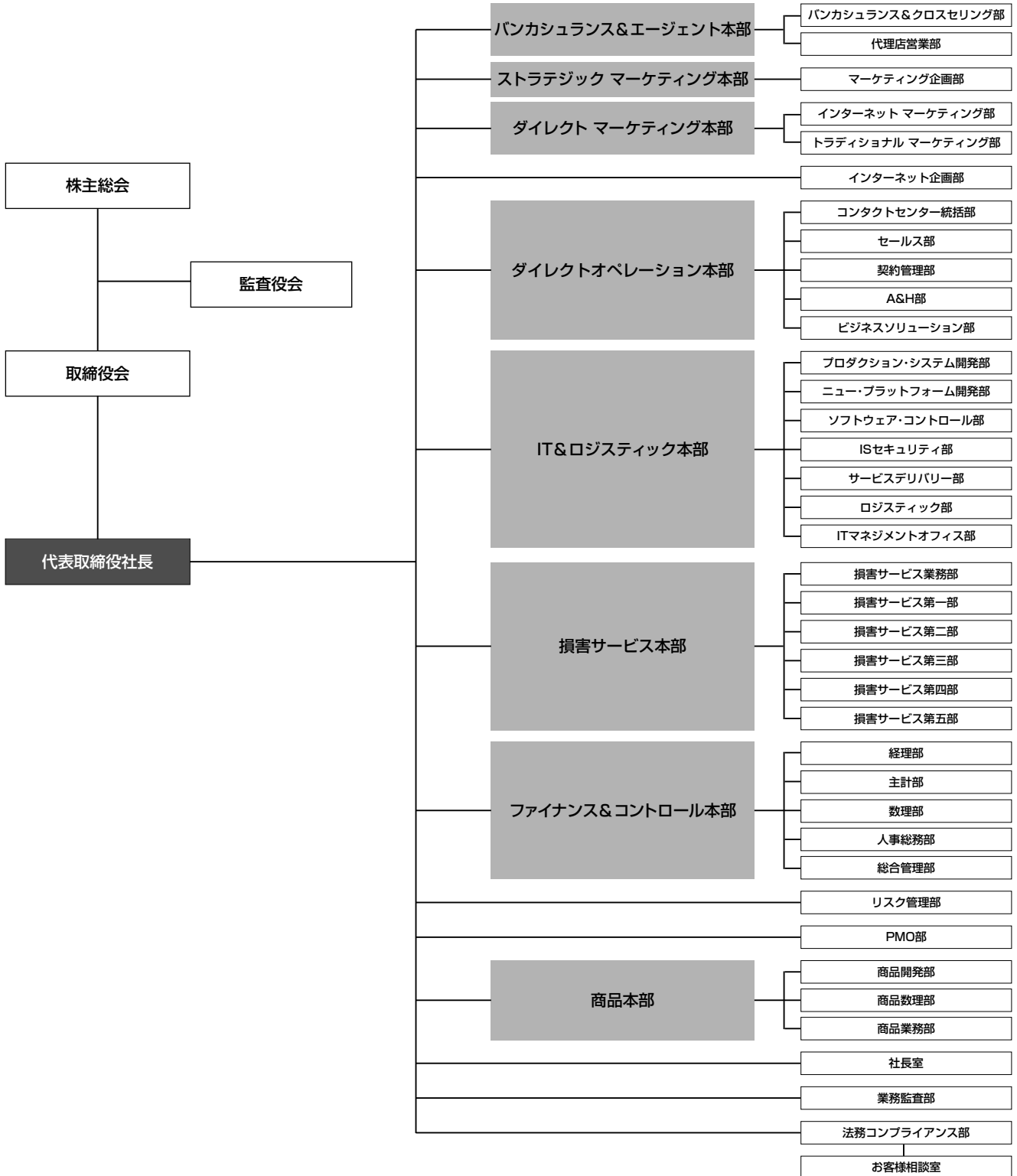
AXAグループが掲げる“Ambition（アンビション）2012”の達成を目指し、従業員から「選ばれる企業」になるために、人材採用と育成を経営の最重要テーマのひとつと位置づけ、常に改善を重ねております。

4 会社の組織

当社の組織図

平成22年(2010年)5月31日現在

構成図は部までとし、部内の課の表示は省略させていただいております。



5 会社の沿革

1 AXAグループについて

AXAグループは、1817年にフランスで生まれ、約9,600万人のお客さまから信頼される世界最大級の保険・資産運用グループです。フィナンシャル・プロテクション（個人顧客から法人顧客まで、あらゆる顧客の絶えず進化し続けるニーズに対し

て、生命保険、損害保険、資産運用の分野のサービスを一生涯にわたって提供するビジネス）をコアビジネスと規定し、世界中で事業活動を展開しております。

沿革

1817年	アクサの前身となる保険会社コンパニー・ダシュランス・ミューチュエル・コントロール・ランサンディ設立
1985年	AXA（アクサ）に社名変更
1992年	エクイタブル・ライフ（米）に資本参加、米国へ進出
1994年	100%出資日本法人アクサ生命保険株式会社を設立
1995年	ナショナル・ミューチュアルを買収、オーストラリア、ニュージーランド、香港へ進出
1996年	6月 ニューヨーク証券取引所上場
	11月 元フランス国営保険グループUAPと合併、世界最大級の保険グループへ
1998年	100%出資日本法人アクサ損害保険株式会社（当社）を設立
2000年	4月 アクサ・ニチダン、3社体制（アクサ保険ホールディング株式会社、アクサ生命保険株式会社、アクサ グループライフ生命保険株式会社）での事業を開始
2004年	6月 アクサ保険ホールディング、アクサ ジャパン ホールディングに社名変更
	7月 AXAフィナンシャル（米）、マネー（MONY）グループ（米）を買収
2005年	4月 AXAブランド 20周年
	5月 アクサ生命、アクサグループライフ生命、合併
2006年	12月 ウィンタートウルグループを買収

2 アクサ損害保険株式会社について

アクサ損害保険は、AXAグループの100%出資により1998年に日本法人として設立されました。1999年4月に通信販売による「アクサダイレクト総合自動車保険」の商品認可を受け、同年7月より販売を本格的に開始いたしました。2004年12月、アクサ ジャパン ホールディングの100%子会社となり、

ホールディング傘下において損害保険分野を担う会社として業務を展開しております。ヨーロッパにおけるダイレクト保険のリーディングカンパニーであるAXAの豊富な経験と技術を活かし、日本のお客さまのニーズに合った商品・サービスの提供に努めております。

沿革

1998年	6月 会社設立
	10月 損害保険事業免許取得
	11月 ユニオン・デ・ザシュランス・ド・パリ・イ・ア・エール・デ（UAP保険会社）日本支社の保険業務を包括移転により継承
1999年	5月 有明にコールセンターを開設
2002年	2月 ローヤル・エクスチェンジ・アッシュアランス（REA）日本支店の保険業務を包括移転により継承
2004年	2月 福井県にコールセンターを開設
	12月 株式交換により親会社アクサ・エス・アーからアクサ ジャパン ホールディング株式会社（持株会社）へ変更
2005年	6月 高知県にコールセンターを開設
2007年	1月 横浜オフィスを開設
2010年	4月 大阪オフィスを開設
2010年	5月 旧本社、西葛西オフィス、有明オフィス、埼玉オフィスの各機能を統合し、新本社を東京都台東区に移転

6 企業概要

アクサ ジャパン ホールディング株式会社

2000年3月7日、アクサ生命と日本団体生命(商号変更後:アクサ グループライフ生命)が、株式移転方式で設立した日本初の保険持株会社。株式の98%をAXAが保有する(間接保有を含む)AXAのメンバーカンパニーです。子会社であるアクサ生命、ネクスティア生命、アクサ損害保険を連結する持株会社で子会社各社の経営管理・監督を行なっています。

また資産運用を行なう他のAXAのメンバーカンパニーと連携して、日本のお客さまをサポートするフィナンシャル・プロテクション事業を展開しています。

本社:〒108-8020 東京都港区白金一丁目17番3号 NBFプラチナタワー
03-6737-7700(代表)

設立:2000年3月

資本金:2,087億円

発行済株式数:7,852千株

事業内容:子会社の経営管理・監督

役員

取締役会長(社外取締役) ジョン・アール・デイシー

取締役(社外取締役) シュ・クー

取締役(社外取締役) ヤン・ヴァン・デン・ヴェルグ

取締役(社外取締役) 若月 三喜雄

取締役(社外取締役) 八木 哲雄

取締役 代表執行役社長兼 CEO マーク・ピアソン

取締役 執行役兼 CFO ピーター・エッツェンバッハ

執行役員 人事部門長 岩崎 敏信

執行役員 ジェネラル・カウンセラー兼法務・コンプライアンス部門長 垣貫 ジョン

執行役員 危機管理・事業継続管理室長 ファーハド・ファーシャド

執行役員 監査部門長 種村 尚

執行役員 広報部門長 福井 由紀子

執行役員 チーフ・インベストメント・オフィサー 松山 明弘

執行役員 チーフ・リスク・オフィサー 住谷 貢

執行役員 ファイナンシャルコントロール部門長 アンジェラ・チョイ

執行役員 ファイナンシャル企画管理部門長 長野 敏

アクサ生命保険株式会社*

アクサ生命保険は1994年に世界最大級の保険・資産運用グループAXAの日本法人として設立され、2000年に日本団体生命保険(商号変更後:アクサ グループライフ生命)と経営統合、2005年に合併し、2009年のアクサ フィナンシャル生命との合併を経て、事業規模を大幅に拡大しました。現在は顧客セグメントに応じた6つの販売チャネル(アクサ CCI、アクサ FA、アクサ FS、アクサ コーポレート、アクサ エージェント、アクサ 金融法人)に専門の教育を受けた社員を配置し、お客さまやビジネスパートナーのニーズに合わせたアドバイスと最適なソリューションをご提供しています。

本社:〒108-8020 東京都港区白金一丁目17番3号 NBFプラチナタワー
03-6737-7777(代表)

設立:1994年7月

資本金:605億円

発行済株式数:210千株

事業内容:生命保険業

役員

取締役会長(社外取締役) 若月 三喜雄

取締役シニアアドバイザー 矢部 進

取締役(社外取締役) 八木 哲雄

取締役(社外取締役) ジョン・アール・デイシー

取締役(社外取締役) 井上 ゆかり

取締役 代表執行役社長兼 CEO マーク・ピアソン

取締役 代表執行役副社長兼 CFO ピーター・エッツェンバッハ

取締役 専務執行役兼 チーフマーケティングオフィサー 松田 貴夫

取締役 専務執行役兼 チーフディストリビューションオフィサー 幸本 智彦

執行役員 人事部門長 岩崎 敏信

執行役員 ジェネラル・カウンセラー兼法務・コンプライアンス部門長 垣貫 ジョン

執行役員 インフォメーションテクノロジー部門長 マーク・プロティエール

執行役員 カスタマーサービス部門長 ファーハド・ファーシャド

執行役員 監査部門長 種村 尚

執行役員 広報部門長 福井 由紀子

ネクスティア生命保険株式会社

ネクスティア生命保険は、2008年4月より営業を開始した日本初のインターネット専業生命保険会社です。アクサ ジャパンホールディング株式会社、SBIホールディング株式会社、ソフトバンク株式会社の出資により設立された、SBIアクサ生命保険株式会社が前身で、2010年2月にアクサ ジャパン ホールディング株式会社の95%子会社となり、2010年5月ネクスティア生命保険株式会社に社名を変更いたしました。お客さまのニーズに合った最適な商品・サービスを、手ごろな保険料でご提供しています。

本社:〒102-0083 東京都千代田区麹町三丁目3番地4

KDX麹町ビル8階

03-5210-1531(代表)

設立:2006年10月13日

(SBIホールディングス株式会社、アクサ ジャパン ホールディング

株式会社、ソフトバンク株式会社の合併会社としてSBI生保設立

準備株式会社を資本金5億円(資本準備金含む)で設立)

資本金:3,750百万円

発行済株式数:15万株

事業内容:生命保険業

役員

取締役会長(非常勤) ファーハド・ファーシャド

代表取締役社長 今井 隆

取締役(非常勤) 住谷 貢

監査役(常勤) 阿部 典達

監査役(非常勤) 長野 敏

監査役(非常勤) 水村 崇

アクサ損害保険株式会社(アクサダイレクト)

アクサ損害保険(アクサダイレクト)は、AXAグループの100%出資により1998年に設立された損害保険会社です。1999年4月には通信販売による「アクサダイレクト総合自動車保険」の承認認可を受け、同年7月より本格的に販売を開始しました。2004年12月、アクサジャパン ホールディングの100%子会社となり、アクサの日本における損害保険分野を担当する会社として業務を展開しています。ヨーロッパにおけるダイレクト保険のリーディングカンパニーであるAXAの豊富な経験と技術を活かし、日本のお客さまのニーズに合った商品・サービスをご提供しています。

本社:〒111-8633 東京都台東区寿2-1-13 偕楽ビル

03-4335-8570(代表)

設立:1998年6月

資本金:172億円

発行済株式数:344千株

事業内容:損害保険業

役員

取締役会長(非常勤) ギ・マルシア

代表取締役社長 藤井 靖之

取締役 石田 一夫

取締役 齋藤 貴之

取締役 喜多 暢之

取締役 ニコラ・エブラン

取締役 足立 正之

取締役(非常勤) 松田 貴夫

取締役(非常勤) ヤン・ヴァン・デン・ベルグ

常勤監査役 府川 峰夫

監査役(非常勤) アレックス・木村

監査役(非常勤) フィリップ・キュテック

※役員は2010年6月30日現在

損害保険用語の解説(50音順)

か行

【価格変動準備金】

保険会社が保有する株式・債権等の価格変動による損失に備えることを目的として積み立てる準備金です。

【過失相殺】

損害賠償額を算出する場合に、被害者にも過失があれば、その過失割合に応じて損害賠償額を減額することをいいます。

【急激かつ偶然な外来の事故】

突発的に発生する予知されない出来事であり、傷害の原因が身体の外部からの作用によるものをいいます。これらの条件を満たす事故として、交通事故、運動中の転倒、火災・爆発事故等があげられます。

【クーリングオフ】

保険契約の取り消し請求権のことです。損害保険の場合には、保険期間が1年を超える長期契約について、申込日またはクーリングオフ説明書の受領日からその日を含め8日以内であれば契約の取り消しができます。ただし、申込み方法によっては対象外となる契約もあります。

【契約の解除】

契約の当事者の一方からの意思表示によって、契約が初めからなかったと同様の状態に戻すことをいいます。ただし、保険契約における解除の効力は、解除時点から将来に向かつてのみ生ずることとなります。

【告知義務】

保険契約締結の際に、保険会社が告知を求めた事項（告知事項）について事実を正確に告げなくてはならない義務をいいます。

さ行

【再調達価額】

保険契約の目的と同等の物を新たに取得するのに必要な金額をいいます。

【再保険】

保険会社が危険の分散を図るため、引き受けた保険契約上の責任の一部または全部を他の保険会社に転嫁することをいいます。

【時価額】

再調達価額から、使用による消耗分を差し引いた金額をいいます。

【事業費】

保険会社の事業上の経費で、損害保険会計では「損害調査費」、「営業費及び一般管理費」、「諸手数料及び集金費」を総称しています。

【支払備金】

決算日までに発生した保険事故で、保険金が未払いのものについて、保険金支払いのために積み立てる準備金のことをいいます。

【重要事項説明書】

契約者が保険契約締結の際に合理的な判断をなすために必要とされる重要な事項を記載した書面です。

【正味収入保険料】

契約者から直接受け取った保険料（元受保険料）に、再保険料を加減し、積立保険料を控除したもので、保険会社が自ら引き受けている部分の危険に相当する保険料のことです。

【責任準備金】

将来生じうる保険金支払い等保険契約上の債務に対して、法律に基づき保険会社が積み立てる準備金の総称をいいます。普通責任準備金、異常危険準備金、危険準備金、払戻積立金、契約者配当準備金等があります。

【全損】

保険の目的が完全に滅失した場合や、修理、回収に要する費用が保険金額を超えるような場合のことをいいます。

【ソルベンシー・マージン比率】

巨大災害の発生や保有資産の大幅な価格下落等の「通常の予測を超える危険」に対する「資本金、準備金等保険会社が保有する支払余力」の割合をいいます。保険会社の経営の健全性を測る指標のひとつです。

【損害保険料率算出機構】

「損害保険料率算出団体に関する法律」に基づいて設立された料率算出団体です。損害保険における公正で妥当な保険料率を算出する際の基礎とすることができる参考純率の算出や、自賠責保険の損害調査等を行っております。

【損害率】

収入保険料に対する支払った保険金の割合をいいます。保険会社の経営分析や保険料率の算出に用いられております。通常は、正味保険金に損害調査費を加えて正味保険料で除した割合を指します。

た行

【第三分野】

生命保険及び損害保険のどちらの固有分野にも属さない傷害・疾病・介護等の保険分野のことです。

【大数の法則】

個々に見れば偶然な事象でも、多数について見れば、そこに一定の確率が見られるという法則のことです。例えばサイコロを振って1の目が出る確率は、振る回数を増やせば増やすほど6分の1に近づいていきます。火災、交通事故、傷害事故等もそれぞれ非常に多数の建物、車、人について考察すると一定の発生頻度が見られます。この法則は保険料率算出上の統計的基礎となっております。

【超過保険・一部保険】

保険金額が保険価額を超えている保険契約を超過保険といい、保険金額が保険価額より少ない保険契約を一部保険といいます。

【重複契約】

同一の被保険利益について、保険期間の全部または一部が共通する複数の保険契約が存在する場合、広義の重複契約といい、また、複数の保険契約の保険金額の合計額が再調達価額または時価額を超過する場合を狭義の重複保険といいます。

【通知義務】

保険契約締結の後、告知事項の内容に変更を生じさせる事実が発生した場合に、保険会社に遅滞なく連絡しなければならない義務をいいます。

は行

【被保険者】

保険の補償を受ける人、または保険の対象となる人をいいます。

【被保険利益】

ある物に偶然な事故が発生することにより、ある人が損害を被るおそれがある場合に、そのある人とある物との間にある利害関係を被保険利益といいます。損害保険契約は損害に対し保険金を支払うことを目的とすることから、その契約が有効に成立するためには、被保険利益の存在が前提となります。

【分損】

保険の目的の一部に損害が生じた場合のことで、全損に至らない損害をいいます。

【保険価額】

被保険利益を金銭に評価した額であり、保険事故が発生した場合に被保険者が被る可能性のある損害の最高見積額のことで、

【保険期間】

保険会社が保険契約により補償の責任を負う期間のことで、

【保険業法】

保険事業の監督法規と保険事業を営む者の組織及びその行為に関する規定を含む法律です。保険事業が健全に運営されることにより、保険契約者等を保護するために制定されております。

【保険金】

保険事故により、損害が生じた場合に、保険会社が被保険者に支払う金銭のことで、

【保険金額】

保険契約において設定する契約金額をいいます。保険事故が発生した場合に、保険会社が支払う保険金の限度額となります。

【保険契約者】

保険会社に対し保険契約の申込みをする人をいいます。契約が成立すれば、保険料の支払い義務を負います。

【保険契約準備金】

保険契約に基づく保険金の支払い等の責任を果たすために、保険会社が決算期末に積み立てる準備金で、支払備金、責任準備金等があります。

【保険始期】

保険期間の初日の保険契約の補償が開始されることをいいます。

【保険事故】

保険契約において、保険会社はその事実の発生を条件として保険金の支払いを約束した偶然な事実をいいます。

【保険の目的】

保険をつける対象のことをいいます。自動車保険での自動車、火災保険での建物・家財がこれにあたります。

【保険引受利益】

正味収入保険料等の保険引受収益から、保険金や損害調査費等の保険引受費用と、保険引受に係る営業費用及び一般管理費を控除し、その他収支を加減したものをいいます。なお、その他収支は自賠責等に係る法人税相当額です。

【保険法】

2010年4月1日より新たに施行された、保険契約の基本ルールに関する法律です。契約者保護の観点より、様々な規定が整備されております。

【保険約款】

保険の内容を定めたものです。保険約款には、同一種類の保険契約のすべてに共通な契約内容を定めた普通保険約款と、個々の契約において普通保険約款の規定内容を補充・変更・排除する特約とがあります。

【保険料】

被保険者の被る危険を保険会社が負担するための対価として、保険契約者から領収する金銭のことで、

【保険料率】

保険料率を算出する上で用いる割合で、単位保険金額当たりの保険料の金額で表されております。

ま行**【免責】**

保険金がお支払いできないことをいいます。保険会社は、保険事故が発生した場合、保険契約に基づいて保険金支払いの義務を負いますが、特定の事柄が生じたときは例外としてその義務を免れることとなっております。

【免責金額】

自己負担額のことをいいます。一定金額以下の損害について、保険契約者または被保険者が自己負担するものとして設定する金額です。免責金額を超える損害については、免責金額を控除した金額を支払う方式と損害額の全額を支払う方式とがあります。

【免責条項】

保険金をお支払いできない場合について定めた条項のことをいいます。保険約款の条文に「保険金を支払わない場合」等の見出しがつけられております。

【元受保険】

再保険に対する用語で、ある保険契約について再保険契約がなされているとき、再保険契約に対してそのある保険契約を元受保険といえます。また、保険会社が個々の契約者と契約する保険のすべてを指す場合があります。

アクサ損害保険の現状 2010 (ディスクロージャー誌)

平成22年 (2010年) 7月発行

アクサ損害保険株式会社

〒111-8633 東京都台東区寿2-1-13

TEL (03) 4335-8570 FAX (03) 4335-8571

URL <http://www.axa-direct.co.jp>

本誌は保険業法第111条に基づいて作成したディスクロージャー資料です



www.axa-direct.co.jp



アクサ損害保険株式会社

redefining / standards

〒111-8633 東京都台東区寿2-1-13

TEL 03-4335-8570(代表)

<http://www.axa-direct.co.jp/>